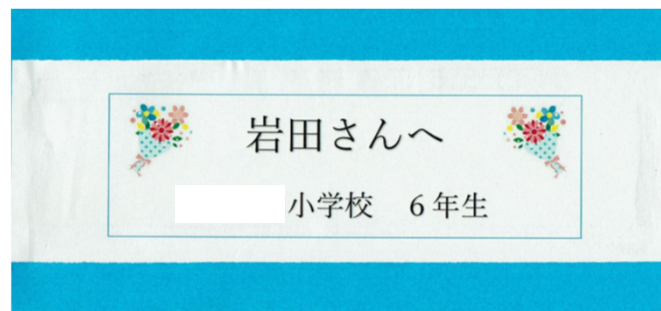


キャリア教育

2月24日(土)、小学校で行われた「先輩に学ぼう」キャリア教育」の授業に、**ゲストティーチャーの一人として参加**しました。
当日は、前後半あわせて17名の方がゲストティーチャーとして参加。私は後半の部に参加し、約10分間(×3回)で、「区議会議員」という仕事について説明し、子供達からの質問に答えました。



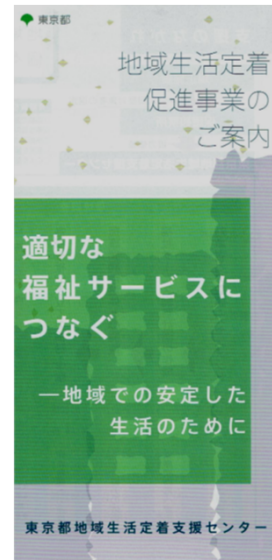
後日、子供達の感想文を、学校からいただきました(下写真)。大人の一人として、子供達が様々な“仕事”に興味を持ってもらえるよう、さらには、「政治」や「議会」というものを少しでも身近に感じてもらえるよう、**機会があれば、可能な限りお手伝いしたい**と思います。



地域生活定着支援

保護司会の部会活動の一環として、現在「社会資源の調査」に携わっております。そうした中、3月26日(月)、**東京都地域生活定着支援センター**(※1)の方からお話を伺いました。

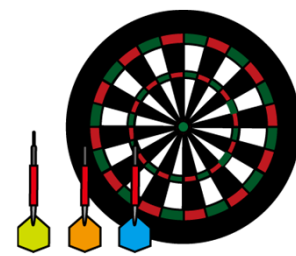
(※1)高齢又は障害により福祉的な支援を必要とする矯正施設を退所される方を、退所後ただちに福祉サービス等につなげ、地域生活への定着をはかるための機関。



「きめ細かい福祉」を求めて、社会として対応してきたことは良いことですが、一方で「**そもそもどのような福祉施策があるのか**」について**全体像を把握することが、難しくなっている**面もあると感じております。様々な機会を捉えて、区民の方から相談をいただいた際に出来るだけ適切な対応ができるよう、常に取組んでいきたいと思っております。

日本障がい者ダーツ選手権大会

1月28日(日)、浴風会コミュニティホールにて「第34回 日本障がい者ダーツ選手権大会」が行われました。
私自身は、**今年も大会スタッフ(ボランティア)として参加**させていただきました。前日(1月27日)は会場設営のお手伝い、当日(28日)は、昨年講習を受けて「C級指導員」となっておりましたので、審判等として参加しました。



日本障がい者ダーツ選手権へのスタッフ参加も、今回で3回目となりました。主審判としての参加は初めてでしたが(これまでは審判補助等)、運営の流れや会場の様子もわかっていったため、比較的スムーズに参加できたと思います。
今後は、ダーツという競技を通して、親子で楽しむ場の創出等、新たな取組みも出来ればと考えております。

次回の定例区議会(平成30年第2回定例会)は、5月29日(火)開会予定です。

区政や岩田いくまに対する質問・ご意見・ご要望をおきかせください。

FAX:03-3247-8660 もしくは E-Mail:ikuma@gakushikai.jp



杉並区議会議員(無所属) 岩田いくま 区政報告

第58号(平成30年春号)

発行:岩田いくま 〒168-0082 杉並区久我山5-24-30-103
TEL/FAX:03-3247-8660 E-Mail:ikuma@gakushikai.jp
HP:http://ikuma-iwata.net (←毎日更新しています!)

岩田いくま(生真)略歴:昭和46年(1971年)生。都立西高、東京大学卒。外資系コンサルティング会社勤務を経て、平成15年5月より杉並区議会議員。平成27年5月より4期目。
趣味:バレーボール(大学時代は母校で部活動のコーチを行う)、読書。
家族:妻、長男(15歳)、長女(12歳)、次男(10歳)。

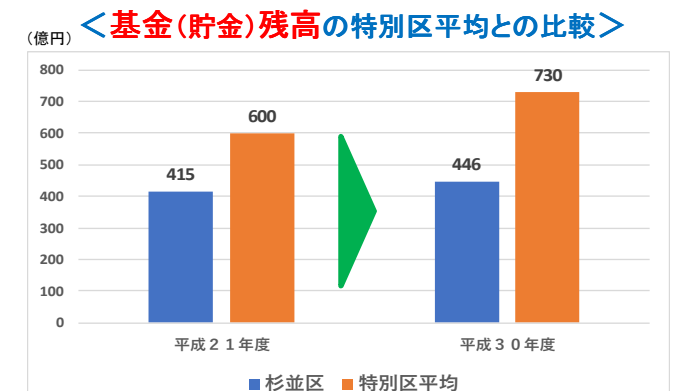
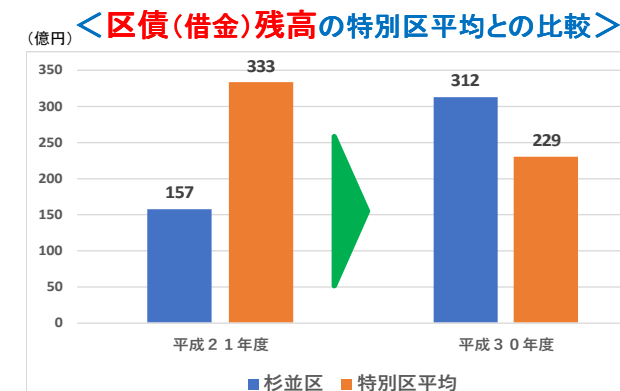
財政で遅れをとる杉並区

～ 平成30年度杉並区予算の課題を考える ～

3月15日(木)、区議会において平成30年度杉並区一般会計予算が可決されました。

私は、①財政健全化への取組みが不十分 ②区長の任期が残り100日しかないことへの配慮の欠如等から、一般会計予算には反対しました。

特別区(23区)平均との区債(借金)・基金(貯金)の比較



前区長時(平成21年度)には特別区平均の半分以下だった**区債(借金)残高は、今では特別区平均を大きく上回っています**。一方で、特別区平均の7割程度だった基金(貯金)残高は、今では6割程度に下がっています。

現区政では「基金と区債をバランスよく活用した財政運営を行う」といつも言いますが、この状態では**財政健全化への取組みが不十分であり、将来世代への責任感が足りない**と言わざるを得ません。

新区長の政策裁量の余地(区長選公約の実施財源)の不足



現区長の平成30年度における任期は約3ヶ月だけです。

従来杉並区では、区長選を控えた年の当初予算は、選挙を通じた民意を区政に適切に反映させるため(新区長の選挙公約を実施するため)、「**準骨格予算(補正予算のための財源を多めに残した予算)**」としていました。これは、その時の区長が再出馬する場合でも同様です。しかし、今回の予算を含め、**現区長となっただけからこうした配慮が見られない**(右表赤字部分)ことも、問題だと考えます。

最近の、任期満了に伴う区長選(※1)を控えた年の当初予算における財源保留額(※2)

	財源保留額	前年度比
平成11年	23億6,500万円	15億1,700万円増
平成15年	20億8,300万円	12億 500万円増
平成19年	20億1,100万円	11億3,200万円増
平成26年	8億2,400万円	2,800万円増
今回	10億 600万円	1億9,900万円増

(※1)平成22年の区長選は、任期途中での辞職に伴うものであるため、対象外

(※2)財源保留額…年度途中で組む補正予算のための財源額

3月2日～14日、予算特別委員会が開催され、7日、8日、12日に質問者として登壇しました。以下、その一部を取り上げます。
* 予算特別委員会の様子は、杉並区議会公式ホームページの委員会録画放映(下記)でご覧いただけます。
http://suginami.gijiroku.com/voices/g07_Video2_Search.asp

【質問でとりあげたテーマ】	
7日	施設白書 就労支援センター
8日	福祉の窓口 受動喫煙対策
12日	学習指導要領改訂 ・道徳教育 ・プログラミング教育 学校給食（アレルギー対応）

研究発表会には400名以上の先生や教育関係者が参加しており、「**道徳の教科化**」に対する**関心の高さ**が伺えました。
道徳の教科化に伴い、「評価」もなされるようになりますが、それは児童の**“道徳性の評価”**ではなく、**“学習状況”**と**“道徳性に係る成長の様子”**の評価です。
年度毎に評価をすればよい、という意見もあるようですが、子供達の学校での学習の様子や成長の様子を保護者が把握し、家庭生活の中で活かしていくためには、**学期毎の評価とすべき**旨、質疑の中で指摘しました。
学習指導要領改訂に伴う新たな取組ですので、学校現場の状況については、引き続き関心をもって見ていきたいと思います。

【**プログラミング教育**】
平成32年度から、小学校において「**プログラミング教育**」が**必修化**されます。私自身が「放課後子ども教室」で行った「初めてのプログラミング教室」での子供達の様子等も踏まえたうえで、現在の区教育委員会の取組みやプログラミング教育についての考え方を質問しました。

小学校でのプログラミング教育必修化は、独自の教科があるわけではなく、また、対象学年や年間時間数が決まっているわけではありません(小学校5年生の算数及び6年生の理科で例示はあります)。
また、プログラミング教育の目的は、コーディング(プログラミング言語を用いた記述方法)を覚えることではなく、**“プログラミング的思考”(自分が意図する一連の活動を実現するために、論理的に考えていく力)を育成すること**です。
放課後子ども教室でのプログラミング教室参加者募集に定員を上回る応募がある等、子供・保護者の関心の高さは実感しておりますので、教委・学校の準備状況に関心を払うとともに、当面は、**学校教育と連携した形で子供達の学びの場をいかにつくっていくか**、これからも考え、実践していきたいと思います。

【福祉の窓口】

4月から、福祉と暮らしのサポート拠点として、「ウェルファーム杉並(複合施設棟)」が開設されました(天沼3-19-16)。
入居する施設の多くは、「あんさんぶる荻窪」からの移転ですが、新たに
・地域の相談機関への後方支援等を行う「**在宅医療・生活支援センター**」
・生活保護受給者や生活困窮者等への就労相談等を行う「**ステップアップしごとコーナー**」(福祉事務所内)
等が設置されました。



福祉や暮らしの困りごとに対して、
「**きめ細かく対応できるようにしよう**(生活保護受給者等専用の就労支援窓口の設置)」
「**組織間に横串を通そう**(在宅医療・生活支援センターの設置)」
という意図は理解できます。

一方で、ウェルファーム杉並内の**就労支援機能**は、「就労支援センター(1階)」「暮らしのサポートステーション(1階)」「ステップアップしごとコーナー(2階の福祉事務所内)」と、**3箇所**あります。
また、**生活相談・支援機能**は、「暮らしのサポートステーション(1階)」「社会福祉協議会(2階)」「在宅医療・生活支援センター(3階)」と、こちらも**3箇所**あります。
利用する区民の方々にとっては、窓口が色々ありすぎて、かえってわかりにくくなってはいないでしょうか。
当面は各窓口の横の連携で適切に対応するとともに、将来的には、区民の方々にとってのわかりやすさを考え、一次窓口の一本化等も検討すべき旨、提言をしました。

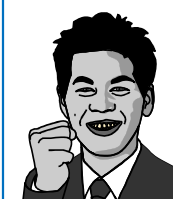
【施設白書】

1月、平成30年度に予定されている「区立施設再編整備計画・第二次実施プラン」の策定に備え、「施設白書」が発行されました。
白書では、「**施設の長寿命化**」を図ることによって、更新費用総額が、今後30年間で523億円、40年間では846億円下がるという試算が示されましたが、**試算根拠に不備がある旨、指摘**しました。

<試算の前提>

	60年で改築する場合(従来の考え方)	長寿命化を図り、80年で改築する場合(新しい考え方)
原則	・築後30年で大規模改修(17万円/㎡)を行う ・築後60年で改築(33万円/㎡)を行う	・築後20年で中規模修繕(8.25万円/㎡)を行う ・築後40年で長寿命化改修(19.8万円/㎡)を行う ・築後60年で中規模修繕(8.25万円/㎡)を行う ・築後80年で改築(33万円/㎡)を行う
現在の築年数が41～50年の建物	・10年以内に大規模改修(17万円/㎡)を行う ・築後60年で改築(33万円/㎡)を行う	・築後60年で中規模修繕(8.25万円/㎡)を行う ・築後80年で改築(33万円/㎡)を行う

*㎡単価は、学校教育系施設の場合



「築41年～50年」の施設について、60年で改築するより80年で改築の方が、改築・改修費総額が安くなっており、**20年長く使うのに、改築・改修費総額が安くなるのは明らかにおかしな試算**です。これでは長寿命化の財政効果を過大に見積もっていることになり、こうした**適切さを欠く甘い試算を元に目先の計画を立てては、費用負担を後世にツケ回すことになってしまいます**。今後の計画策定や予算策定に当たっては、**今回の試算の不備をしっかりと補って対応するよう、求めました**。

ウェルファーム杉並 複合施設棟

フロア	施設
4F	天沼区民集会所(第1～第5集客室) (社福)杉並区社会福祉協議会(杉並ボランティアセンター)
3F	消費者センター 在宅医療・生活支援センター (公社)杉並区成年後見センター
2F	杉並福祉事務所 荻窪事務所 (社福)杉並区社会福祉協議会
1F	就労支援センター 暮らしのサポートステーション(生活自立支援窓口) 子ども・子育てプラザ天沼
B1F	駐輪場、駐車場、災害備蓄倉庫

